



陸軍工兵中佐木本氏房外一名叙勲
竝勲章加授ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク
昭和六年七月十四日

内閣總理大臣男爵若槻禮次郎



内

閣



裏面白紙

昭和六年八月三日勅記
昭和六年七月十六日勅記

昭和六年七月十五日
昭和六年七月十四日

賞勳局第一三六號 陸勳三 号

昭和六年七月九日 内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣

賞勳局總裁

陸軍工兵中佐從五位勳三等木本氏房
外一名敍勳並勳章加授、件別紙、
通議定候條御沙汰案ヲ具シ此段
允裁ヲ仰ク

追テ本件、兵器ハ秘密ニ屬スル趣
ニ付辭令文、官報掲載ハ見合ス
ヘク候為念副申ス

御沙汰案

陸軍工兵中佐從五位勲三等木本氏房
銳意研鑽遂ニ空中寫真ニ依ル迅速
測圖方式ヲ完成シ之ヲ實用化シタル
功績顯著ナリトス依テ旭日中綬章ヲ
授ケ賜フ

陸軍技手坂野久重郎
銳意研鑽空中寫真ニ依ル迅速測
圖方式ノ完成實用化ヲ補佐シタル功
績顯著ナリトス依テ勲八等瑞寶章

内閣

ヲ授ケ賜フ

昭和六年七月八日

賞勳局總裁

書記官

議定官

可 否



敘勳並勳章加授議案

陸軍工兵中佐從五位勳三等木本氏房

外一名

右ハ大正十四年以來空中寫真ニ依ル

賞勳局

戰場測量並之ニ關スル器材ノ研究ニ
從事シ其ノ豊富ナル經驗ト獻身的
努力トニ依リ遂ニ所要器材ヲ發明ス
ルト共ニ本邦獨特ノ測圖方式ヲ完成
シ之ヲ實用化セルモノニシテ其ノ功績
顯著ナリト認ム仍テ陸軍大臣ノ上奏
ヲ勘査シ勳等並加授ノ勳章ヲ擬議
スル左ノ如シ

陸軍工兵中佐從五位勳三等木本氏房

授旭日中綬章

陸軍技手坂野久重郎
叙勲八等授瑞寶章

賞勲局

授旭日中綬章陸軍工兵中佐從五位勳三等木本氏房
 叙勲等授瑞寶章陸軍技手坂野久重郎
 右者大正十四年以來空中寫真依戰場
 測量並之関スル器材ノ研究ニ従事シ
 其ノ豊富ナル經驗ト献身的努力トニ依
 リ遂ニ所要器材ヲ發明スルト共ニ本邦
 獨特ノ測圖方式ヲ完成シ之ヲ實用化セ
 リ其ノ顯著ニシテ國軍ノ爲ニ貢獻スル
 頗ル大ナルモノアリト認メラルルニ付
 特別ノ御思召ヲ以テ各頭書ノ通賞賜被
 仰出度
 謹テ奏ス

昭和六年五月 日

陸軍大臣南次郎



昭和六年七月十六日 賞 勳 局

本件ニ関スル明細書ハ極秘ニ屬スルヲ以テ陸軍省ハ返戻ス(昭和六年七月十六日陸軍省恩賞部倉本大尉ニ直接渡ス)



精密ナル空中寫眞測量機ハ既ニ歐米諸國ニ於テ二、三實用ニ供セラレ相當ノ精度ヲ示

陸 軍

ナルモ孰レモ平時測量用ニシテ移動性ニ乏シク地上測量ヲ要スルノミナラス製圖ニ特殊ノ技能ト多大ノ時日トヲ要シ到底戰場ニ於ケル迅速ナル製圖ニ適サス各國ノ苦心ナル處ナリ最近發表セラレ又ハ現在行ハレツ、アル迅速空中寫眞測量ハ空中寫眞ヲ「モザイク」的ニ接合スル方法、水平曲線ヲ描畫ササル製圖法竝水平曲線ヲ描畫スル製圖法ナルモ平面描畫及水平曲線描畫ノ爲ニハ「モザイク」寫眞ノ外孰レモ圖根ノ決定ヲ必要トシ之カ爲地上測量ヲ實施スルノ要アリ然ルニ今回中佐ノ苦心完成ナル空中寫眞ニ依ル測圖方式ハ毫モ地上圖根測量ヲ行ハス然モ著シク精度ヲ増大ナル點ニ在リ此方式ハ現今吾人ノ知ル範圍ニ於テ世界ニ於ケル嚆矢トス前記ノ特徴ヲ有スルカ故ニ敵地區及跋涉困難ナル地域ヲ空中寫眞ノミニヨリ平面ハ勿論所望ノ等距離間隔ニテ水平曲線ヲ容易ニ描畫シ得ルノミナラス其ノ製圖速度ニ於テモ圖ノ精度ニ於テモ歐米各國ノ採用ナル方法ニ比シ遙ニ優秀ナリ尙作業ノ爲ニハ短期ノ教育ニ依リ困難ナク軍隊自ら實施シ得ルノ利アリ
從來實施ナル試驗並昭和四年特別大演習ノ際統監部測量班トシテ實施ナル結果ニ依ル

不 本 氏 房

作戰ヲ主トスル國軍ニ在諸般ノ實行ニ資スルコト測圖方式ヲ考案スルノ必ニ關スル豐富ナル經驗ヲ獨特ノ空中寫眞ニ依ル迅ノ内寫眞機ノ傾斜度記錄ヲ秘密特許ヲ得尙之ニ關月四日陸軍技術會議ノ審議トシテ制定セラレタリ

戦近戦場用地圖ヲ迅速ニ作製スルコトノ緊要ナルハ勿論外征作戰ヲ主トスル國軍ニ在リテ戰時急速ニ某地域ノ地圖ヲ完成シ之ヲ作戰ノ指導並戰闘諸般ノ實行ニ資スルコトハ特ニ緊要ニシテ之カ爲新ニ空中寫眞ヲ利用シ國軍ニ適スル測圖方式ヲ考案スルノ必要ヲ生カリ中佐ハ大正十四年七月以來之カ研究ニ從事シ測量ニ關スル豐富ナル經驗ヲ基トシ深奥ナル學理ヲ究メテ之カ器材ヲ考案創製シ遂ニ本邦獨特ノ空中寫眞ニ依ル迅速測圖方式ヲ完成シ之ヲ實用化ナリ

中佐カ坂野技手ト協同ニテ發明考案セル空中寫眞測量用器材ノ内寫眞機ノ傾斜度記錄裝置及實體曲線描畫機ハ昭和四年九月夫々陸軍大臣ノ名ヲ以テ秘密特許ヲ得尙之ニ關聯スル器材一式(實體曲線描畫機外二十四點)ハ昭和五年六月四日陸軍技術會議ノ審議ヲ經同年 十月 四日陸軍第四三四號ヲ以テ陸軍ノ兵器トシテ制定セラレタリ精密ナル空中寫眞測量機ハ既ニ歐米諸國ニ於テ二、三實用ニ供ナラレ相當ノ精度ヲ示

陸 軍

ナルモ孰レモ平時測量用ニシテ移動性ニ乏シク地上測量ヲ要スルノミナラス製圖ニ特殊ノ技能ト多大ノ時日トヲ要シ到底戰場ニ於ケル迅速ナル製圖ニ適ナス各國ノ苦心ナル處ナリ最近發表セラレ又ハ現在行ハレツ、アル迅速空中寫眞測量ハ空中寫眞ヲ「モザイク」的ニ接合スル方法、水平曲線ヲ描畫ヤサル製圖法並水平曲線ヲ描畫スル製圖法ナルモ平面描畫及水平曲線描畫ノ爲ニハ「モザイク」寫眞ノ外孰レモ圖根ノ決定ヲ必要トシ之カ爲地上測量ヲ實施スルノ要アリ然ルニ今回中佐ノ苦心完成ナル空中寫眞ニ依ル測圖方式ハ毫モ地上圖根測量ヲ行ハス然モ著シク精度ヲ増大ナル點ニ在リ此方式ハ現今吾人ノ知ル範圍ニ於テ世界ニ於ケル嚆矢トス前記ノ特徴ヲ有スルカ故ニ敵地區及跋涉困難ナル地域ヲ空中寫眞ノミニヨリ平面ハ勿論所望ノ等距離間隔ニテ水平曲線ヲ容易ニ描畫シ得ルノミナラス其ノ製圖速度ニ於テモ圖ノ精度ニ於テモ歐米各國ノ採用ナル方法ニ比シ遙ニ優秀ナリ尙作業ノ爲ニハ短期ノ教育ニ依リ困難ナク軍隊自ら實施シ得ルノ利アリ

從來實施ナル試驗並昭和四年特別大演習ノ際統監部測量班トシテ實施ナル結果ニ依ル

測量成果及軍事上ニ於ケル效果概ネ次ノ如シ

一本測量ノ成果ハ平面位置ハ約一〇米標高ハ多クモ數米ノ誤差ニ止マリ其ノ速度ハ概ネ國軍ノ作戰並戰術指導上ノ要求ニ達ス即チ樞尺一萬分ノ一ニテ約四十平方杆ノ地域(普通陸地測量部地圖版二枚)ヲ僅々十八時間内外ニテ製圖並約一千部ノ印刷ヲ完了ス

二將來戰ニ於ケル本空中窺視測量ノ利用ハ上陸地偵察測量、軍前進路測量、攻防陣地測量、要塞地帶測量等ニシテ遭遇戰ニ於テモ亦其利用可能ナリ特ニ外征作戰ヲ主トスル國軍ニ在リテハ其偉大ナル效果ヲ期待シ得ヘシ

三過去戰役ノ例ニ徴シ戰時測量ノ必要ナルハ勿論平時尙モ機會アラハ迅速ニ測量製圖シ一般ノ用途ニ供シ得ヘシ

之ヲ要スルニ空中窺視ニ依ル本測圖方式ノ考案並所要器材ノ研製ハ敵地區及戰場用地圖ノ作製上ニ一大革新ヲ與ヘタルモノニシテ將來作戰ノ指導並戰術講教ノ實行上適時國軍ノ要求ヲ充シ得ルモノトス中佐ノ努力偉大功績顯著ナルモノト認ム

昭和六年一月二十七日

陸

軍

陸軍大臣 宇垣 一成



陸 軍 技 手 坂 野 久 重 郎

戦近戦場用地圖ヲ迅速ニ作製スルコトノ緊要ナルハ勿論外征作戰ヲ主トスル國軍ニ在
リテ戰時急速ニ某地域ノ地圖ヲ完成シ之ヲ作戰ノ指導並戰圖諸般ノ實行ニ資スルコト
ハ特ニ緊要ニシテ之カ爲新ニ空中寫眞ヲ利用シ國軍ニ適スル測圖方式ヲ考案スルノ必
要ヲ生ヤリ技手ハ大正十四年七月以來能ク木本中佐ヲ補佐シテ之カ研究ニ從事シ測量
ニ關スル豊富ナル實地ノ經驗ヲ基トシ之カ器材細部ノ考案並實施ノ衝ニ當リ遂ニ本邦
獨特ノ空中寫眞ニ依ル測圖方式ヲ完成シ之ヲ實用化ヤリ

技手カ木本中佐ト協同ニテ發明考案ナル空中寫眞測圖用器材ノ内寫眞機ノ傾斜度記錄
裝置及實體曲線描畫機ハ昭和四年九月天々陸軍大臣ノ名ヲ以テ秘密特許ヲ得尙之ニ關
聯スル器材一式(實體曲線描畫機外二十四點)ハ昭和五年六月四日陸軍技術會議ノ審
議ヲ經同年十月 四日陸軍第四三四號ヲ以テ陸軍ノ兵器トシテ制定ヤラレタリ
本器材並測圖方式完成ノ爲ニハ技手ハ寢食ヲ忘レ一意細部ノ考案並實施ニ任シ改善ヤ

陸 軍

ラレタル點極メテ多ク特記スヘキモノ左ノ如シ

一、實體曲線描畫機ノ曲線描畫作業ヲ一層迅速容易ニシ且精度ヲ増進ヤシムル爲踏圖板、
自在連結裝置及手動足動變換裝置ヲ考案シ右手ノミヲ以テ交互ニ原板棒ノ移動並曲
線ノ描畫ヲ爲スノ不利ヲ除去ヤリ

二、實體曲線描畫機上ニ迅速容易ニ原板ヲ標定スル爲原板ノ光軸周旋回中心點ノ回轉ニ
依ル高度視差不變ノ理ヲ求メ最モ正確且至短時間ニ之ヲ標定シ得ル方法ヲ確立ス

三、自動偏歪修正機ノ使用ハ從來圖根點ヲ用キテ偏歪ノ修正ヲ行フカ又ハ佛人「ルシー
ル」ノ發表ヤル近似計算式ヲ基礎トシ空中攝影諸元ヨリ偏歪修正諸元ヲ算出シテ偏
歪修正ヲ行ヒタルカ該計算式ハ著シキ誤差ヲ伴フコトヲ發見シテ之カ改正ヲ企圖シ
撮影諸元ヨリ直ニ正確ナル偏歪修正諸元ヲ算出スヘキ計算式ヲ誘導シ之ニ依リ正確
簡便ナル自動偏歪修正機裝定諸元表ヲ調製シ本機ニ依ル偏歪修正ヲ極メテ容易ナラ
シメタリ

之ヲ要スルニ空中寫眞ニ依ル本測圖方式ノ考案並所要器材ノ創製ハ敵地及戰場用地

圖ノ作製上ニ一大革新ヲ興ヘタルモノニシテ將來作戦ノ指導並戰圖諸般ノ實行上適時國軍ノ要求
ヲ充シ得ルモノトス木本甲佐ヲシテ之カ完成ニ至ラシメタル技手ノ努力偉大功績顯著ナルモノト
認ム

昭和六年一月廿七日

陸軍大臣 宇垣 一



陸軍

履 歴 書

陸軍工兵中佐從五位勲三等 木本氏 房

明治十七年九月二日生

族 籍 東京府士族

現住 所 陸軍技術本部

明治三十五年九月一日 陸軍中央幼年學校へ入校

同三十七年五月三十日 同校卒業

同 年 五月三十日 士官候補生トシテ工兵第十二大隊へ入隊

同 年 六月一日 陸軍士官學校へ入校

同三十八年三月三十日 同校卒業

同 年 四月二十日 任陸軍工兵少尉

同 年 同月同日 工兵第十二大隊補充大隊附被仰付

同 年 五月二十五日 叙正八位

陸 軍

同三十九年二月九日 補工兵第十二大隊附

同 年 四月一日 明治三十七八年戰役功ニ依リ勲六等瑞寶章及金

貳百圓ヲ授ケ賜フ

同四十年十二月五日 任陸軍工兵中尉

同四十年一月七日 陸軍砲工學校普通科ニ入學

同 年 三月二十日 叙從七位

同 年 十二月九日 陸軍砲工學校普通科卒業、處高等科學生トシテ在學

同四十二年十二月十六日 母校高等科卒業

同四十二年十二月五日 陸地測量部班員

大正二年五月二十日 叙正七位

同三年五月十六日 叙勲五等授瑞寶章

同四年四月九日 任陸軍工兵大尉

一、同年六月二十五日	支那駐屯軍司令部御用掛ヲ命ス
一、同五年三月十七日	支那駐屯軍司令部御用掛ヲ免ス
一、同七年七月十日	叙従六位
一、同八年十月二十五日	叙勲四等授瑞寶章
一、同九年九月十三日	兼補陸軍砲工學校教官
一、同十年二月四日	免本職補陸地測量部班長
一、同十年十一月一日	任陸軍工兵少佐
一、同十二年十一月三日	叙正六位
一、同十三年二月八日	兼補陸軍航空學校教官
一、同十四年一月十三日	兼補陸軍技術本部々員
一、同年七月七日	兼補下志津陸軍飛行學校教官
一、同年七月十日	陸地測量部御用掛ヲ命ス
一、同十五年八月六日	任陸軍工兵中佐
陸軍	
一、昭和二年十月三日	叙勲三等授瑞寶章
一、同三年十月五日	叙従五位
一、同五年一月十六日	獨逸及米國へ出張ヲ命ス
一、同年八月二日	歸朝

めくられず

履歴書

陸軍技手 坂野久重郎

明治三十四年十二月十五日生

族籍 東京府平民

現住所 陸軍技術本部

明治四十二年三月一日 雇員ヲ命ス(陸地測量部)日給參拾五銭ヲ給ス

大正九年三月二十七日 累進シ月給貳拾七圓ヲ給ス

一同年同月同日 陸達第七ノ班ニ依リ月分ヨリ月給五拾貳圓ヲ給ス

一同十年四月四日 任陸地測量手給月俸五拾貳圓

一同年同月同日 陸地測量部附ヲ命ス

一同 年十二月十日 給八級俸

一同十二年十二月十日 給月俸六拾圓

一同十二年十二月十日 給七級俸

陸軍

一同十三年十月十日 給月俸七拾圓

一同十四年十月九日 給六級俸

一同十五年六月三日 任陸技手 給六級俸

一同 年 同月同日 陸軍技術本部附ヲ命ス

一同昭和二年六月十日 給五級俸

一同四年六月十日 給四級俸

陸軍

陸軍 三 号

勳第一四七號

木本中佐以下二名賞賜、件進達

昭和六年五月六日

陸軍大臣南次郎

内閣總理大臣男爵若槻禮次郎殿



一、陸軍工兵中佐木本氏房外一名賞賜、件
右進達又

陸軍

裏面白紙

